

もしかして認知症!?

検査でわかる!

認知症の種類

伊勢赤十字病院



代表的な認知症

アルツハイマー型認知症

認知症の約60%を占める。脳にアミロイドβといわれる老人斑(不要なたんぱく質)が溜まることにより発症。

症状

新しいことが覚えられないなどの**記憶障害**、場所や時間の判断がつかない**見当識障害**。

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害により、十分な酸素や栄養が行き届かず、脳の動きが低下することにより発症。

症状

障害の発生した場所によって、症状が異なる

レビー小体型認知症

脳内にレビー小体といわれる異常なたんぱく質が溜まることで、神経細胞が障害を受けることにより発症。

症状

実在しないものが見える**幻視**や**被害妄想**、**抑うつ症状**。

前頭側頭型認知症

思考や感情をコントロールする前頭葉が言葉の理解や聴覚等を司る側頭葉が委縮し、血流が滞ることにより発症。

症状

人格の変化や**異常行動**、進行に伴う**意欲減退**。初期はアルツハイマー型のような記憶障害はない。

認知症の検査

認知症の原因を診断するためには、脳血流シンチグラフィという脳の血流分布を画像化する検査を行います。

検査を希望される場合は、まずはかかりつけ医の先生にご相談ください。



当院では、受付・問診のあと、検査室にて検査用の薬を注射し、検査装置(写真)の上に横になります。検査には30分程度の時間がかかります。

令和6年度日本赤十字社三重県支部 収支決算概要

歳入(764,293千円)

個人からの会費・寄付金収入
280,537千円

法人からの会費・寄付金収入
31,360千円

その他の収入
452,396千円

うち、社屋移転整備にかかる積立金からの取り崩し348,000千円

歳出(740,567千円)

歳入歳出差引額(翌年度繰越金)
23,726千円

災害救護活動・救護体制の強化に
66,215千円
●能登半島地震災害への救護班等の派遣
●救護班要員等の育成
●災害救護訓練や研修の実施
●災害物資の備蓄、救護資機材の整備

生命と健康を守る講習及び赤十字ボランティアの活動に
36,652千円
●救急法等の各種講習会の実施
●奉仕団活動を推進するためのボランティアの養成

世界中の災害や紛争、病気などで苦しむ人々の支援事業に
46,585千円
●レバノンの医療技術支援
●東アフリカ地域保健強化事業
●アジア、大洋州における給水、衛生支援

市町村での赤十字活動に
36,576千円
●各市町村での救護資機材の整備
●各地域でのボランティア活動

赤十字会員の募集や広報活動に
25,106千円
●パンフレット、広報誌の作成
●ダイレクトメールの送付

血液センター・病院の運営支援に 15,072千円
社屋移転整備・維持管理に 473,386千円
運営管理等の経費に 40,975千円

赤十字活動資金へのご協力をお願いします

日本赤十字社の活動は皆さまの寄付により支えられています。今後も「苦しんでいる人を救う」赤十字の活動を継続するために、活動資金へのご協力ををお願いします。

あなたのご寄付でできること



30,000円
心肺蘇生訓練用人形 1体



50,000円
緊急セット(救援物資) 10セット



寄付申込はこちらから

三重県内での赤十字活動や役立つ情報を発信しています。フォローよろしくお願いします! /

公式X、Instagramで活動情報発信中!

二次元コードからは非チェックしてみてください!



Q & A 赤十字クイズ

赤十字の活動を行っている国と地域の数はいくつでしょうか

- A 176の国と地域
- B 185の国と地域
- C 191の国と地域

正解者の中から抽選で

5名様に/
ハートラちゃん
帆布エコバッグを
プレゼント!

右記アンケートフォームにて回答いただくか、又はハガキに ①クイズの答え ②お名前 ③ご住所 ④年齢 ⑤本誌を読まれた経緯(回覧など) ⑥本誌へのご意見・ご感想 ⑦今後掲載してほしい内容 を記載のうえ、三重県支部あてに郵送してください。

※収集した個人情報につきましては、個人情報保護法及び日本赤十字社の保有する個人情報保護規程に則り取り扱います。

日本赤十字社 三重県支部
Japanese Red Cross Society

日赤みえ 発行元 / 日本赤十字社三重県支部
〒514-0131 津市あつ台四丁目8-5 TEL 059-264-7700 FAX 059-264-7701
https://www.jrc.or.jp/chapter/mie/ 発行日: 令和7年10月31日



+ 日赤みえ 2025年度



イベントの日赤三重無線奉仕団ブースで無線体験をする子どもたち

CONTENTS

特集

赤十字はさまざまな人たちによって支えられています

- 令和7年度三重県支部災害対策本部要員研修会を実施
- 検査でわかる!認知症の種類
- 令和6年度収支決算概要
- 赤十字活動資金へのご協力をお願いします
- 公式X、Instagramで活動情報発信中!
- 赤十字クイズ





赤十字の活動は、1859年にイタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノで悲惨なありさまを目の当たりにしたスイスの実業家アンリー・デュナン（第一回ノーベル平和賞受賞者）が、戦争で傷ついた兵士たちを、地元の人々とともに救護したことがきっかけではじまりました。

それから赤十字の活動は世界中に広がり、世界191の国と地域*で赤十字スタッフやボランティアが活動を行っています。

三重県における赤十字活動もさまざまな方々の力により成り立っています。今回は日頃、赤十字の活動を支えてくださっている方々を紹介します。

※令和7年10月31日時点



令和7年度三重県支部
災害対策本部要員研修を実施

令和7年10月2日、三重県支部では災害発生時に迅速かつ的確に対応するために「災害対策本部要員研修」を実施しました。

今後の災害に備えて、災害対応経験の豊富な他県支部職員に協力を依頼し、伊勢赤十字病院の災害医療コーディネートチームとともに災害対策本部要員である三重県支部職員10名が研修に参加しました。

研修では、本部の機能・業務・体制および組織について理解を深め、運営を円滑に行えるよう、災害対策本部の体制構築や情報収集・共有の重要性、活動記録（クロノロジー）の取り方等について学びました。

また、実際に本部を設営し、発災直後を想定した本部活動について訓練を通じて、実践的な対応力を養いました。

これからも災害時に迅速な対応ができるよう備えていきます。

ボランティアとして…

能登半島ボランティア活動

令和6年に発生した石川県・能登半島における地震や大雨災害では、赤十字は全国から医療救護班等を被災地へ派遣し、医療支援や物資支援、こころのケアなどを行いました。

発災から時間が経った現在も仮設住宅で生活されている方々や復興の目途が立たずに苦しんでいる方々がたくさんいます。

三重県支部では、令和7年6月に石川県能登町の仮設住宅にて、日赤いなべ市地域奉仕団の団員らとともに、被災された方を対象としたリラクゼーション、健康体操、もの作り体験を行いました。

地域奉仕団とは？

全国の市町村で地域に根差した活動をしているボランティアグループです。三重県では10市5町で地域奉仕団が活動しています。

被災された方々と
コミュニケーション
をとる奉仕団員



奉仕団員と一緒に
ビーズと安全ピンを
使ってもの作りを
行う様子



安全奉仕団

救急法・水上安全法で人間のいのちと健康を守ります

安全奉仕団は、自治会や学校などで開催される赤十字救急法短期講習会や赤十字が開催する養成講習会などで講師として指導を行っています。また、当奉仕団員は自らの知識・技術の向上のために、毎年三重県支部で研修会を開催しています。

日常生活での非常時や近年発災の可能性が高まる大規模災害時において、人間のいのちと健康を守る行動ができる人を増やすために活動をしています。



AEDの使い方を教える団員

県内全域で
いのちと健康を
守るための
知識と技術を
伝えています。

点訳は正確さを求められます。私たちは日々勉強会・研修会で、楽しく和気あいあいと技術向上に努めています。点訳に関心のある皆さま、ぜひ一緒に活動してみませんか？



出前授業

点訳奉仕団

点訳を通して目の不自由な方の日常生活を支えます

県内6地区に結成されている「点訳友の会」の団員を中心に組織しています。点字は目が不自由な方の日常になくしてはならないものです。日常生活を快適に送れるよう、小説・雑誌・新聞記事をはじめ、電車の時刻表やゴミの収集カレンダーから教科書や楽譜などの専門書に至るまで点訳しています。

また、地域イベントでの啓発や学校へ出前授業も行い、幅広い世代への点字普及に努めています。

毎年、県の総合防災訓練に参加し、無線通信訓練に取り組んでいます。日頃は子供たちにも無線の楽しさを伝えています。



ボランティア活動の
詳細や参加についての
問い合わせはこちら！



無線奉仕団

アマチュア無線を使って災害時の情報収集を行います

無線奉仕団は、アマチュア無線の資格を持ったメンバーで構成されており、技術を活かして災害時における情報収集活動に日々備えています。

メンバーは員弁・桑名から伊勢・志摩まで点在しており、訓練時に無線通信に取り組むほか、日頃からミーティングを実施するなどコミュニケーションも活発にとりながら、災害時に備えて団員同士の結束を図っています。



非常通信訓練

献血で…

三重県では献血ルームや献血バスで年間延べ約6万人の方々に献血にご協力いただき、医療機関への血液製剤の安定供給に努めています。今回は、献血協力者であり、三重県学生献血推進連盟みえっちでも活躍されている大倉 亮介さんの声を紹介します。



県内の献血ルーム

三重県赤十字血液センター
津市あのか4丁目8-5
☎ 0120-05-5632

四日市献血ルーム「サンセリテ」
四日市市安島1-3-31
近鉄四日市駅前「トナリエ四日市」5階
☎ 0120-39-5863

伊勢献血ルーム「ハートワン」
伊勢市船江1丁目471-1
ミタス伊勢内
☎ 0120-25-7821

献血バス
運行スケジュール



私が献血をはじめたきっかけは、「人の役に立ちたい」というささやかな思いでした。もともと献血という存在は知っていましたが、特別な関心を持っていたわけではありません。そんな小さなきっかけから始めた献血ですが、今では学生が献血を推進する団体「三重県学生献血推進連盟みえっち」に所属し、全国の学生が集まる会議に参加するほどになりました。

献血には針を刺す痛みがあります。最初は少し緊張しましたが、今ではその痛みも気になりません。むしろ「自分の小さな協力で人の命を

救えるのだ」と思うと誇らしくすらあります。

街では赤十字の職員さんと献血を呼びかけていますが、この呼びかけで通りすぎた人すべてが献血をしていただけたら、どれだけの命が救えるだろうと考えることもあります。

私が献血をする理由は、大きなものではありません。ただ、献血で人を救えることに価値があると信じています。だからこそ、これからも私は献血を続けていきたいと思っています。

寄付を通して…



株式会社ミエデン様

赤十字の活動は、国や県の補助金によるものではなく、多くの寄付者のご協力に支えられており、三重県内でも、毎年45万人、740法人の皆さまからご支援いただいています。

年に1回表彰式を開催し、ご支援いただいた寄付者の方々へ支部長（一見勝之）から表彰品をお渡しして感謝の気持ちをお伝えしています。

有功会
山崎 計 会長
（株）百五銀行
取締役会長



寄付団体
三重県支部有功会

三重県支部有功会は、昭和42年から半世紀以上にわたり、赤十字を支える支援団体として活動を続けています。毎年、有功会の会員の皆さまから1,000万円以上のご支援をいただき、赤十字の活動を支える大きな力になっています。

赤十字活動を
支える一員として
支援を継続して
います。



寄付の詳細については
ホームページをご覧ください

